

研修報告書 No.18

県外病院 初期臨床研修医

研修先： 土佐市立土佐市民病院

この度地域医療研修として、高知県土佐市にある土佐市民病院を中心に 3 つの病院と特別養護老人ホームで 4 週間にわたり研修を行わせていただいた。以上より、研修内容について簡単ではあるがご報告させていただく。

まず、高知県の地域特性として、高知県の全人口は約 70 万人であり日本で 3 番目に人口の少ない県である。そのうちの約半分にあたる 33 万人が高知市の人口であり、土佐市に関しては約 2 万 6 千人が生活している。高知県の全人口は昭和 35 年以降減少傾向にあるが、近年高齢者数は年々増加しており、現在の高齢化率は全国平均の 28.1%を大幅に上回り 34.8%と秋田県に次いで全国 2 位であり、高齢化が非常に進行している地域である。次に、高齢単身世帯の割合は全国 1 位、高齢夫婦世帯の割合は全国第 11 位となっている。また、本県の人口当たりの病床数は全国平均の約 2 倍であり、全国第 1 位である。実際、高知市内や土佐市内でも医療機関が非常に多くある印象を受けた。

私の研修先であった土佐市民病院の病床数は 150 床であり、二次救急医療まで行う市内の中核的役割を担う急性期病院である。主な研修内容は、外来や救急対応、病棟管理、人間ドッグの結果説明、各種検査の見学であった。救急患者に関しては、CPA や急性心不全など緊急性の高い疾患から低い疾患まで様々であり、普段の研修病院での救急患者と大きな差はないと思われた。一方、外来患者に関しては、初診患者に加えて、急性期病院であるが内服薬の処方のみを希望とされる患者が多く来院されているのが印象に残っている。検査に関しては、腹部エコーや心エコー検査、上部内視鏡検査などの見学を行い、また、実際にやらせていただき非常に有意義な時間を過ごすことができた。普段の研修病院ではやりたくてもなかなか時間をかけて出来ないことを、1 ヶ月という短い期間であったが、たくさんやらせていただき大変勉強になった。

3 つの近隣病院では、主に外来見学を行った。また、適宜グループホームや障害者施設、個人宅への訪問診療にも参加させていただいた。高齢者の診察を通し、改めて全身を診る大切さや難しさなど今後高齢者が急速に増加していく中で、専門的な知識や視点だけでなく general な診かたも学ぶ必要性を痛感した。

特別養護老人ホームとさの里では、短い時間であったが職員の方から施設の役割や特徴を非常に丁寧に説明していただき大変勉強になった。土佐市からの助成金により他県に比べ介護施設や器具が充実しており、居住者および介護職員ともに負担が軽減している内容など施設に行かなければ得ることのできない経験が多くあった。実際の現場で医療と介護の違いを知ることで医療行為の限界を少しでも認識できたのは、普段介護現場を見る機会

がない私としては大変勉強になった。

今回、高知県土佐市での研修を通し、急性期から回復期の患者およびそれぞれの対応に当たる医療・介護関係者から貴重なお話を聞かせていただいたことや、実際の現場に参加することで地域医療連携の流れを理解することができた。地域の中で医師として、高度急性期、急性期、慢性期、回復期のどの段階を担っているのかを意識し、高齢者の人口分布や年代なども把握した働き方が求められていることを学ぶことができた。また、開業医の先生方の往診を通し、今後高齢化に伴い、急性期疾患よりも慢性期疾患を主とした在宅での診療や看取りを希望する患者の増加が予想されている現状を目の当たりにすることで、自分の専門分野をしっかりと勉強し、高齢者が求めるものを自分なりに見つけ、知識や技術を身に付け、今後大きく変化する医療ニーズにも対応できるよう研鑽していきたいと強く思うことができた。研修医の間にこのような貴重な経験を出来たことは、多くの方のご協力の下で成り立っていることを自覚し、今後の診療および自己研鑽に少しでも役立てていきたいと思われた。

最後になりましたが、私を受け入れて下さった土佐市民病院の皆様をはじめ、井上病院の石黒先生、伊与木クリニックの伊与木先生、ひろせクリニックの廣瀬先生、特別養護老人ホームとさの里の職員の方々には、大変お忙しい中ご指導いただきましたことを改めて心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。